

151 エルサレムに迎えられる(勝利の入城)

ルカによる福音書 19 : 29~4



29 そして、「オリーブ畑」と呼ばれる山のふもとにあるベトファゲとベタニアに近づいたとき、二人の弟子を使いに出そうとして、30 言われた。

「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばのつないであるのが見つかる。それをほどこいて、引いて来なさい。」



31 もし、だれかが、『なぜほどくのか』と尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」

→ロバは、祭司、貴族、平和の使者たちの乗り物で、馬は王の乗り物である。

32:使いに出された者たちが出かけて行くと、言われたとおりであった。33 ろばの子をほどこいていると、その持ち主たちが、「なぜ、子ろばをほどくのか」と言った。

34 二人は、「主がお入り用なのです」と言った。

35 そして、子ろばをイエスのところに引いて来て、その上に自分の服をかけ、イエスをお乗せした。

36 (平和の君) イエスが進んで行かれると、人々は (イエスを歓迎し、敬意を表すために) 自分の服を道に敷いた。

→自分の服を道に敷いた：偉大な人物を歓迎し、敬意を表す方法の一つ。

(列王記下 9 : 1 3) 彼らはおのおの急いで上着を脱ぎ、階段の上にいた彼の足もとに敷き、角笛を吹いて、「イエフ (→イスラエル王国唯一の名君、在位：841/2~814/815) が王になった」と宣言した。

→民衆は、メシア的王国の設立を期待していたが、イエスは十字架に向かっておられた。

37 イエスがオリーブ山の下り坂にさしかかれたとき、弟子の群れはこぞって、自分の見たあらゆる奇跡のことで喜び、声高らかに神を賛美し始めた。

38 「主の名によって来られる方、王に、／祝福があるように。天には平和、／いと高きところには栄光。」

→ (ゼカリヤ書 9 : 9) 娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歡呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者／高ぶることなく、ろばに乗って来る／雌ろばの子であるろばに乗って。

→新しい油注がれた王が子ろばに乗ってやってくる。それはエルサレムと諸国に平和をもたらすことを示している (イザヤ 9 : 5~6、11 : 1~9、ミカ 5 : 1~4)。

39 すると、ファリサイ派のある人々が、群衆の中からイエスに向かって、「先生、お弟子たちを叱ってください」と言った。

40 イエスはお答えになった。「言うておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫び出す。」

→ (回復訳) イエスは答えて言われた、「わたしはあなたがたに言う。もしこれらの者が黙るなら、これらの石が叫び出すであろう」。

→ (リビング・バイブル) ところが、イエスはお答えになりました。「その人たちが黙っても、道ばたの石が叫びだします。」

41 エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて、42 言われた。

「もしこの日に、お前も平和への道 (→イエスをメシアと信じる道) をわきまえていた (→知っていた) なら……。しかし今は、それがお前には見えない。」

→ (リビング・バイブル) さらにエルサレムに近づいた時、イエスは (外的に繁栄している) 都をごらんになり、都の (内面的腐敗、不信仰の) ために涙をこぼされました。
 →エルサレムの繁栄とは逆に、ユダヤの人たちは、霊的に貧しく盲目になっていた。日本は・・・。

43 やがて時が来て、敵が周りに堡壘を築き、お前を取り巻いて四方から攻め寄せ、

→堡壘：敵の襲撃を防ぐため、石、土、コンクリートなどで固めた堅固な構築物。

→イエスの預言は成就した。AD70年、ローマ軍はエルサレムでのユダヤ人の反乱を鎮圧した。ローマ軍は多くの城壁を破壊し神殿を崩壊した。

44 お前とそこにいるお前の子らを地にたたきつけ、お前の中の石を残らず崩してしまうだろう。それは、神の訪れてくださる時をわきまえなかったからである。」

→民衆は神が敵から救う時が来ることを切望していた。しかし、救いのメッセージを持って、イエスがエルサレムに来られたにもかかわらず、多くの人々はイエスのことを救い主とは認めなかった。彼らは、自分たちの考え方や願いを優先させたのである。結果、AD70年に、エルサレムの崩壊が起こるのである。

【参考】 過越祭とイエスの勝利の入城

出エジプト記 12：3～8

イスラエルの共同体全体に次のように告げなさい。『今月 (→ニサンニサンの月) の十日 (日曜日、勝利の入城：イエスがエルサレムに入られた。一説：AD30年4月2日)、人はそれぞれ父の家ごとに、すなわち家族ごとに小羊を一匹用意しなければならない。もし、家族が少人数で小羊一匹を食べきれない場合には、隣の家族と共に、人数に見合うものを用意し、めいめいの食べる量に見合う小羊を選ばねばならない。その小羊は、傷のない一歳の雄でなければならない。用意するのは羊でも山羊でもよい。それは、この月の十四日 (木曜日) まで取り分けておき、イスラエルの共同体の会衆が皆で夕暮れにそれを屠り、その血を取って、小羊を食べる家の入り口の二本の柱と鴨居に塗る。そしてその夜、肉を火で焼いて食べる。また、酵母を入れないパンを苦菜を添えて食べる。』

太陽暦・ユダヤ暦・バビロニア暦

太陽暦	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月 (ヘブライ語)	第一の月	第二の月	第三の月	第四の月	第五の月	第六の月	第七の月	第八の月	第九の月	第十の月	第十一の月	第十二の月	
ユダヤ暦	ニサン Nisan, Nissan	イヤール Iyyar	シバン Sivan, Sivan	タムーズ Tamuz	アブ Abh, Av	エルール Elul	ティシュリ Tisri	マルヘ Shevan Marcheshvan	キスレウ Kislev, Kislev	テベト T'ebeth	シェバト Shevat	アダル Adar, Adar	
バビロニアの月名 (): カナンの古称	ニサン (アビブ)	イツアル (ジウ)	シワン	タムズ	アブ	エルル	ティシュリ (エタニム)	ヘシュワン (プ)	キスレウ	テベト	シェバト	アダル	
主な行事	七週間 14~21 過越祭 (ベサハ) 満月除酵祭		七週祭 (シャボット) 新月 五旬祭 (ペンテコステ Pentecoste ギリシア語) ※ユダヤの三大祭：過越祭、七週祭、仮庵祭				1: 新年 10: 大禮葬日 15~21: 仮庵祭 (スコット) 満月		25: 宮清めの祭 (ハヌカの祭り) (25日~8日間)				
	①イエス・キリストが過越祭の時に、子羊として十字架にかけられ、殺された。 ②三日目によみがえられた。一復活祭												

聖書から見た過越祭と除酵祭、そしてイエス・キリストの磔刑

ニサンニサンの月

第一の月の十四日の夕暮れが主の過越である。同じ月の十五日は主の除酵祭である。(レビ記23:5~8)

③聖書記述通りの図表示

十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日
夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼

10日: 小羊を一匹用意する (出エジプト12:3)

● 14日夕暮れ: 小羊を屠り、その血を二本の柱と鴨居に塗る (出エジプト12:6~7)

■ 15日夜: 小羊の肉を火で焼き食べる (出エジプト12:8)
 過越祭: 主の過越し (出エジプト12:11、12)

十四日夕方

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

除酵祭: 七日の間 (十四日夕方から二十一日の夕方まで)
 酵母を入れないパンを食べる (出エジプト12:15、12:18)

バビロン捕囚前の暦

↑
 マタイによる福音書
 マルコによる福音書
 ルカによる福音書

↑
 記述が異なる

↓
 ヨハネによる福音書

↓
 公式のユダヤ暦

